



第17号
 昭和58年5月10日
 社団法人
 上田高等学校同窓会
 印刷所
 信毎書籍印刷棟

入学生定員大増加

十二教室が増築 明年三月竣工予定

昭和五十八年四月より上田高等学校一学年の定員が三百三十五名より四百五十名に増加した。本年は上小地区の中学校生徒の本校受験が調整され、四百四十四名が無試験で入学された。入学試験が無かったことは本校開校以来初めてのことであった。定時制の入学生は昨年十三名であったが、本年は二十五名に増加した。

昭和五十年から開始された校舎の前面改築は、昨午格技室の建築で、ほぼ完成し、余すところは定時制校舎の新設だけとなっているが、本年度の定員増加により、定時制六教室に加えて本科六教室が三階建て新築される。その予算が二月の県議会で承認されている。なお、旧音楽室の跡地(北側通門入口の東側)に鉄骨軽量コンクリートブロック積み、広さ六七・六六平方メートルの建物で、文化系クラブ習練室として創設された。また第二グラウンドに防球ネットが増設され、更衣室の改装等が行われた。

本年度で全面改築工事が終了する予定。

独立八十周年 記念事業

独立八十周年記念事業として、五十五年十月十二日上田公園内市長会館で盛大な祝賀会が挙行された。それに伴ない記念事業として同窓会館に附属する生徒運動部合宿所、同窓会館の全面的修理、造園事業、校史の発行等を行って来た。

造園工事は本年度十二教室完成後に残されている造園をして終了する。校史は、祝賀会の当日、上田中学園創立迄の経過を記述した「草創編」二百七十頁を発行し、其の後学校内に執筆委員会を設けて分担執筆に当たってきたが、執筆委員の転出等があり、執筆が遅達したの、校長編纂委員会遠藤恭介委員長に、振出しに戻り校長編纂委員を依頼し、八月「中学編」の前

編(明治太正編)が発行される筈で、購入申し込みを受けることにしている。校史の完成後、記念事業会の会計報告が行われるが、昭和五十八年三月迄に一億九百六万四千円に達し、利子等雑収入三三〇万円があった。

昭和五十七年度総会

講演は和田裕(四十八回)氏

昭和五十七年度同窓会総会は昨年改築した同窓会館で、六月六日(日)午後一時より開催された。最初に田中豊雄氏(三十六回卒)の映画「四つの塔の物語」「志賀の猿」を上映し、続いて防衛庁装備局長和田裕氏(四十八回卒)の「最近の防衛問題について」と題し講演されたが、非常な反響があった。昭和五十六年度の事業報告及び



▲校名碑

校名碑寄贈

第五十回(昭和二十七年三月)卒業生は昨年八月卒業以来八十年を迎えた記念に、校舎北側通門の右側に「校名碑」を寄贈した。校名碑の執筆等は現在上田高等学校校長斎藤嘉郎先生で、達筆と賞讃されている。

決算、昭和五十七年度事業計画及び予算が承認された。終つて懇親会に移り、五十六年の秋と五十七年春の激動者、勲五等双光旭日章(大田垣甫(24回)、勲五等瑞宝章倉沢周平(26回)、同じく山本太郎(26回)、勲四等瑞宝章小林久雄(28回)、同じく田中五郎(28回)紺綬褒章木村文厚(74回)の諸氏の祝賀会を行った。

上田高校の 囲碁クラブ

上田高校生徒の囲碁クラブは東京千代田区日本棋院で、毎年開催される全国高等学校囲碁選手権大会に出場しているが、五十六年七月、五十七年八月の大会で二年連続して四位を占める快挙をなした。出場した選手は何れも本校入学後碁を習った生徒である。また昨年十二月七日東京新宿厚生年金会館で行われた、朝日アマチュア将棋名人選に出場した奥村明(72回卒)氏が準決勝、決勝とも圧勝をした。奥村さんは中学生のとき将棋を覚え、上田高校時代に力をつけ、現在は家具店を継承している。

安全とサービスを保って20年

営業品目 LPG・配管・器具・冷暖房工事・防災器具

長野プロパンガス株式会社

本社上田店	上田市大字国分5 4 2番地 TEL 0268 (22) 5518(代)
松本支店	松本市美須々7の1番地 TEL 0263 (32) 4652(代)
諏訪支店	諏訪市湖南字大曲222 TEL 02665 (2) 4353
広丘工場	塩尻市広丘野村 TEL 02635 (2) 0672
長野営業所	長野市中越 TEL 0262 (43) 5307

美と健康に奉仕する

ファッションアクセサリ製造部

株式会社 こだま

代表取締役社長 児玉志郎 (44回・4期)

〒110 東京都台東区上野7丁目9番2号

TEL 03 { 845-3366
841-8887

「母校の道場開き」と 「依田誠先生米寿の祝」

柔和会主催で昨秋開催

「東浅間の山深く、一風秋を斉らせば……」と私達柔道部員が汗と埃にまみれた青春の血をたぎらせた古色蒼然たる道場は、既に跡かたもなく、本日相見る柔道場は鉄筋コンクリートの立派な近代的建物に生まれ変わった。

曇りがちの秋空の下、五十七年九月十九日、来賓や部員が続々参る中に、恩師依田誠先生が夫人と共に横谷重時幹事の甲斐がいしい介抱の下に姿を現わされ、車椅子で会場に到着された。思ったより御元氣をうで一同ほっとした。

格技棟の一階、東半分が柔道場であり、西側は剣道場、道場正面(東)には講道館長嘉納行光先生の「柔能制剛」の額が、新しく飾られ、南側壁面には、私達柔道会員の米札が横並びに何段も掲示されてあった。往時が走馬燈の如く思い出されると共に、自分を育ててくれた母校の存在が今日は一段と身近く感ぜられた。

(其の一) 柔和会総会
上田市議員の小林郷司常任幹事の司会で総会が開かれ、山崎保太副会長の開会の辞に続き、横関辰雄会長が挨拶をされた。かつて柔道日本一の榮譽に輝く会長は喜寿とは思えない若さであった。続いて山寺豊一幹事長が地元を代表し、小林郷司東京幹事が夫々、事

業報告を行ない、山寺幹事長を中心として、今日の為に奔走した石田副幹事長の会計報告を承認した。来賓の永野裕貞上田市長より御祝辞を戴いた。百二十畳敷きの畳の上には、宮原栄吉青木村々長を始めとして部員が所狭ましと並び、溢れた生徒は剣道場の床に起立せざるを得なかった。

(其の二) 道場開き
愈々道場開きの行事に入り、先づ永年の御努力を賜わり、生みの親ともいふべき新美真澄前上田高校長より、その苦心談を承り、改めてその御功績に感謝した。続いて本日の催に御助力を賜つた小山富一郎師範の御指導にて、生徒二人の投げの形が行われた。

(其の三) 依田誠先生米寿の祝
行事は進んで恩師依田誠先生の米寿の祝が始まった。二十年間の長きに亘って母校に教鞭をとられた柔の教を、一筋に人の道を説かれた嵩高な依田先生のお人柄を讃えると共に、数多くの教え子の為に隠れて私財を提供されて、俊英を援助された往時の秘話を坂田隆雄東京柔和会長が披露されると、会場からどよめきが起こり、多大な感銘を覚えた一時であった。

続いて横関会長から記念品を、現役部員の女子マネージャーより花束が贈呈されると、先生は車椅子

子前に出され、全身の力をふりしぼって、心のこもった謝辞を述べられた(二代代読)

その後柳沢文秋同窓会長、斎藤嘉郎校長より、心暖まる御祝辞を最後に名残りつきない式典は終了した。

(其の四) 祝宴
一階の紅白の幕をめぐるした祝宴会場では、東京柔和会の柳沢広幹事長の名司会の下に、小林郷司常任幹事の開会の辞が述べられ、矢島五郎同窓会関東支部長の師弟の情を述べた幹事の音頭で、楽しい会合が始まった。

途中で退席予定であった依田先生御夫妻はお疲れの様子もなく、生御椅子の上から教えと話をしておられた。

宴席の中、岩下美千穂元校長の指揮の下で合唱が始まった。

清き歴史は積りだ、齡は既に……嗚呼、この歌だ。先生と友と汗にまみれて柔道衣で肩を組み乍ら歌ったのは、酒の故か、それとも懐旧のセンチか、涙が溢れてとまらない。先輩と後輩と一つの渦の中に霞んでしまった。

最後に県会議員母袋忠右衛門幹事が万才を三唱し、小林常任幹事の閉会の辞で散会した。

会員七十四名、来賓七名、現役二十名と集合者百有余名、又不参加者の寄附引きもきらず、よき哉柔道。

(追記) この催しに多大な御協力を賜りました方々に紙上をかりて厚く御礼を申し上げます。

(40期) 小林郷司記

同期芸術家の 一二作品を母校に

《四十九期卒業生》

秋玲瓏の空、されど風強き昭和五十七年十一月六日の母校前庭に、後輩吹奏楽団のこの日のためのテープをカラオケに、八十数名の校歌斉唱の音が響き渡り、折しも開催されていた県教育研修会中の先生方を驚かせた。

話は二年前に遡る。同窓会の母校創立八十周年記念事業に、わが四九期生は急遽作られた幹事会によって一八〇万円の目標額を遥かに超える好成绩を見込み、同窓会記念事業幹事に意気揚々と臨んだ。昭和五十五年秋である。この席上先輩各期の母校愛溢れる寄贈品が披露され、特に期近かの四七期の校歌碑、四八期の少年像「向」が夫々卒業三十周年記念事業として注目を集めた。そして、同窓会からは更に芸大出の土屋瑞穂はじめ母校出身芸術家の作品の要望が伝えられた。昭和五十六年はわれ

われ四九期生の卒業三十周年であり、土屋瑞穂は同期である。八十周年募金は全額同窓会へ入れて了った後の祭りであったが、勇を鼓して四九期卒業三十周年記念事業を行うことを決定した。

募金は八十周年の際には地元主体であったが、今回は全員一率一万円、目標三〇〇万円とし、寄贈品は、芸大彫塑出、宮城教育大教授、一陽会々員土屋瑞穂の彫塑作品及び、同期の東京美術大芸術出、筑波大芸術学群教授、示現会々員田中良尊の油彩作品の二点と決定し、両者の快諾を得た。そして募金活動は各地の組織化を図り、昭和五十六年五月より開始した。

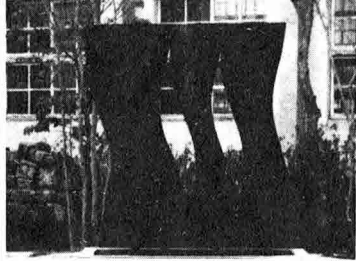
土屋作品は、彼のライフワークの一環となる「キラデスの追憶」

文化財保護委員会の諸先輩をわずらわしたものの、無為の一年が過ぎた。昭和五十七年四月、先輩でもあり恩師でもある斎藤嘉郎先生を校長に迎へ、同窓会水野春海記念事業事務局長の積極的な御支援の下に、作者の来田を得て設置場所を変更し、完成していた前庭ロスターリ脇の楓の林の中に決定した。完成された御苦心の造園の中に、植樹、庭石を移動して土屋作品を受け入れ、更に愛情溢れる御指導と御助力を賜つた桜井慶三郎先生(三期)、県造園協会専務理事、庭園改造費の負担までして御支援下さった同窓会、そして学校

同窓会館において二年間の水きにわたる事業完成の美酒に酔った。この午後六時より場所を鹿教湯温泉に移して、四九期同窓大会を同期の斎藤貞夫の経営する「ホテルかめや」において開催した。三十年ぶりの邂逅は「おめ、だれだっけ」「あいつはだれだよ」の連発となり、少年に返った五十余名は薄くなった半白の頭を振りたてて、談論風発、飲めや歌えやの大騒ぎ、続く二次会に徹夜して放歌高吟、翌朝唄れた声でささやくものさえる次第となった。なお、この秋勳四等瑞宝章の栄に浴された清水次郎先生が、病後をはじめ大勢の席へ出て来られ、やんちゃなわれわれに訓辞を賜つたことは祝賀気分を更に盛り上げるものとなつた。

事業費の不足見込額は、翌朝参会者の友情あふ発議で行われたカンパによって直ちに解消し、なお次期活動資金を残すこととなつた。全ての行事を終え決算報告を済ませた十二月十二日、代表幹事中村周及び山極勝夫はじめ柳原彰二、高橋忠正、青島二郎の幹事会は四九期会の結束を約して解散した。

(青島二郎記)

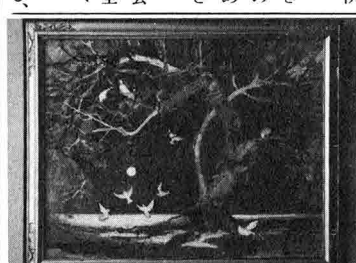


ギリシャ・キクラデス諸島から出土するピナスの原型のイメージを連作しているもので、コルテン鋼を素材に高さ二米ほどのものを三つ組合せ、暖かく有機的で、笹舟とも女人のトルソーとも思わせる抽象作品。錆びた特殊鉄作り、落ちついた赤黒色となつて、周囲の木々の四季の要望に調和する——これを作者の要望として堀の中に、と云うことになった。当時の校長新津真澄先生の熱烈な御支援を得て運動を始めたが、場所が場所だけに、市教育委員会、市

田中作品は、母校を巣立つ後輩をイメージに、彼の追求している朱色にその熱い想いを託して描いた油彩五〇五号作品「翔」となつて届けられた。(現在図書室に掲額されている)

募金事業の進行と相俟つて、準備萬端整つたのが計画を樹ててより九二年、予定より一年遅れた昭和五十七年十一月六日、漸く「秋玲瓏の……」となつたのである。そしてこの日を期して、その趣きを報道機関に広報したため、この事業及び作品は信毎、朝日はじめ有力紙五紙によって県下に紹介された。

晩秋の陽光の中で、柳沢同窓会理事長はじめ十一人の来賓と、全国より参集した同期生約七十名が、並べた二作品を前にして、除幕、寄贈等々式次第を滞りなく終了し、



35回同期会と濱村、三石両君祝賀会

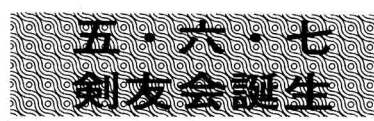
去る三月十九日(土)第35回同期会が、先般我々の同期の濱村謙一郎、三石武吉三郎両君が黄綬褒章を受賞されたので、その祝賀会をかねて開催された。

集まる面々、実に四十三名の多きを数え、関東支部からは副支部長長岡健君、石倉謙一君が非常な多忙の中を馳せ参じ、更に遠く横浜から宮坂四雄君、久々に瀧沢正君、珍しく渋谷元則君と在京勢多数参加して、近々例がない程の盛会であった。

追悼した。その後四時余、おのが年を忘れ、青春の日の中学時代に返り、校歌、凱歌に涙し、歌ったり飲んだり、思い出深い合会になり、木村、荒木両幹事として望外の喜びの日であった。

(荒木豊治記)

……とは妙な名前
ゴ・ロク・ヒチ
知れないが、実は
昭和五年、六年、
七年に卒業した上
中剣道部々員によ
り作られた会の名
前である。
我々剣道部には
OBの親睦会と言
うものは無かった
卒業してはや五十
余年、伊藤長三先生を語り、あの
剣道室も共に語りたいと言う声
が地元よりも東京・大阪方面から涌
然として起こり、ここに結成をみ
るに到った。



第一回の開催は五十六年秋上山田温泉にて九名の出席、第二回は五十七年秋別所にて十名の出席者をみ、初めは名前と顔が合わなかったが、だんだん当時の面影が歴然とし、やがて道具をつけた姿となり、苦しかった寒稽古、暑中稽古の合宿、校内外の試合、特に伊藤先生への追慕、懐かしき一杯の物語りは延々と続く、そしてやがて学窓を出てからのあやなす人

生、軍隊の話もしんみりと伝るを知らずであった。この時学んだ不撓不屈の剣の道の精神は我等の生涯に於て頑張り、立ち直り、生き抜いた糧であり、最も大切なものであったことに結論された。

第二回目の時は現上田高校剣道部後援会長の村上和夫氏(三四回卒)にお出いただき完成された格技室(道場とは言わない)、部の活躍状況などお聞きした。これは余録がついて、氏と同級でやはり部員であった常葉寺住職半田孝淳氏よりそういう会なれば縁なきにあらずとて金巻封を頂戴し、翌日はお寺にて奥様より茶菓子の接待にお預りした次第。

末尾に参加者の氏名を記しましたが、この会をどう発展させるか諸兄にご相談したい。回卒に關係なく同じ思いの方々に自発的に参加して頂くが、その時の会名はなぞ、今後の宿題であるが、取あえず五十八年度は五、六、七会の上下の方々に呼びかけるつもりで居る。

尚事務局は当時のマネージャーであった水野氏にお願いしてありまして、住所を附記しておきましてからよろしく。

最後に現剣道部の一層のご活躍を期待します。

工藤林之助(二九回昭和五年卒・九子町) 赤羽義隆(三〇回昭和六年卒・東部町) 成沢省三(同・東部) 針塚正樹(同・渋川市) 宮尾行雄(同・豊中市) 伊藤幸男(三一回昭和七年卒・寝屋川市) 下田国男(同・上山田町) 玉井康彦(同・東京都) 土屋学(同・東京都) 水野義男(同・上田市常盤城) 二一五。(五十八年寒二月工藤記)

新設体育館に側章とHBゴールポスト一式贈る!!

《45・46同期会》

昭和十七年上田中学校入学生は、躍のために、そのゴールポストなど器具一式を、側章に追加して寄贈することにした。かくして、新設の体育館の南側、校庭から見上げる壁面高く、さくら花の側章がとりつけられ、ここで鍛える健児たちの、誇り得るシンボルマークとなることであろう。また、室内にあっては、ハンドボールにその技と腕を磨いて、凱歌に詠まれたかぶとや薙れの旗を、永くわが手に保つておくものである。

一方、今回の寄贈を記念して、昭和五十七年四月二十四日、上山田温泉ホテル清風園で、一泊の同期会を開催した。中村六男、山極真平両先生に加え、珍しく林幸四郎先生のご出席を得て、集う同期生は二十二名。遠方よりの参加者が少なく、一まつしの淋しさがあつたが、当番幹事柳沢賢二君の挨拶に続き、発起人から募金についての経過報告があり、次期当番を決めたあと懇親会に入る。ほどよく酔がまわる頃に記念撮影をはさみ、ホテル側の森重君の好意もあつて杯を重ねることに賑やかに快く終わる。髪を薄さと白さの見かけでは恩師を上まわる面々が、すっかり若やいで旧交を温める中で、すばらしい夜が更けていった。

二八会●開催記

青島正利・荒井真佐次・池上一巳 市川利一・今井邦末・尾崎典男・小泉涯二・甲田時夫・須佐安登・瀬在邦明・高木精一・田口光一・童野重治・堤 強・遠山孝吉・西沢不夫・平林克己・藤沢宗・母袋悦男・森重勇・柳沢賢二

山極達成
このたびの同期会の企画が、同期生各位の暖かい結びつきで、意欲深くまとまったことに対して、改めて感謝をし、同期諸君の愈々の健勝を願って報告とする。
(46田口記)

信濃路によりやく早春の足音がしのび寄る千曲河畔の宿、上山田温泉ホテル清風園において三月二十八日(この日を毎年の例会日と定められている)二八会(二十八回卒)例会を開催した。

出席者二十二名、例年二十名前後で顔触れも大体決つているが、今調査結果を取纏めてみると「出席したい」約五十名「出席できない」約二十五名無回答(含宛先不詳三)十九名特に二十五名の「出席できない」理由については①病氣 ②遠隔 ③一身上 ④開催日 ⑤其他

後で顔触れも大体決つているが、今調査結果を取纏めてみると「出席したい」約五十名「出席できない」約二十五名無回答(含宛先不詳三)十九名特に二十五名の「出席できない」理由については①病氣 ②遠隔 ③一身上 ④開催日 ⑤其他

アンケート調査 [依頼]

ご氏名

今まで出席した回数約 回、殆んど毎回

出席したい(又は気持でいる)から通知を貰いたい

開催月を 月にすれば

日帰りなら

出席できない

病氣、一身上、遠隔、其他()

3月開催が都合悪い

其の他理由

ご意見

●この調査は今後の二八会運営の参考にしたいのでご協力下さい。

●例年に欠席又は例会通知に返信のない方は原則として通知はいたしません。

●この二八会は旧制上田中学28回卒で毎年開催の例会出席(又は出席したことのある)者同志の会です。貴兄のご参加お待ちしております。

アンケート調査

卒業以来五十余年会員の動向と今後の会運営の資料を目的に全会員にアンケート調査の依頼状を発送した。

懇親会も和氣藹藹裡に阿々哄笑放談論発よくも話題がつきないものと遠時間の怪つものも忘れつつさきともない盛会振りだつた。

中山健三記

笠井南村先生を偲ぶ

四十二回卒 細川雨村

日本漢詩会の第一人者笠井南村先生は昭和十一年、大東文化学院高等科を首席で卒業、同級生が旧制大学や高等学校、中国の北京大学、陸士や海兵、師範学校等で教鞭を執るのをよそに見て、旧制上田中学校に赴任されたのであった。

先生は昭和十一年四月から同十六年十二月まで、第三十九回並びに四十四回卒業生の担任教師となられ、上田中学校の漢文教育に専念せられた。

先生の四年八ヶ月の在任期間はさして長期間とは言えないが、先生の逸話は沢山ある。

赴任早々上田駅前の本質宿に下宿し、人力車で出勤したこと、太郎山の山火事件、信濃教育会での漢文教育論争、新聞記者との確執等々枚挙に暇ないが、南村先生と言えども何と言っても漢文の素読である。

「読書百篇義自見」が先生の教育方針である。「二十回読んで来い。読めば意味は自然に解る」と言われる。毎週二時間、毎時間指名読が行われる。読めなければ鉄拳が加えられ床に坐らせられる。これは当初からの約束である。先生は感情的に怒って殴るのではない。約束違反の鉄槌である。

先生から教えを受けて四十年の星霜を聞いた今日、なお同年会の席上必ずこの話が出る。それはすべて懐かしい思い出である、南村先

生の学識と人格に対する畏敬の念である。名利に恬淡として権門に屈せず、詩人としての純粹さと漢文学に裏つけられた先生の人格の然らしむるところである。

先生は昭和十五年中国に遊ばれ帰期後大東文化学院の助教授として上田中学校を去られた。しかし先生の人柄を慕う生徒が多く、大東文化学院への志願者が激増した。

南村先生の漢学は、儒学者というよりむしろ老荘の道家思想に近い、詩は当代第一流の詩人、服部空谷、石田東陵、国分青崖、土屋竹雨の諸先生に学び、陶淵明をこよなく愛した。唐代の詩人では杜甫より李白に近い。従ってその著書「抱樸集」や「渭樹江雲」を見ても道士的傾向に加えて佛教的諦観思想も感じられる。

先生は昭和十九年大東文化学院の教授となられ、二十六年家庭の事情で山梨に帰山、県立高校の教諭、山梨学院大学教授、大東文化大学の漢詩講座の講師となり、漢詩同人詩「言水」「漢詩人」の主幹として活躍され、文学通り甲州の大自然の中で俗塵を離れ人生を楽しむながら後輩の指導に当たっておられた。

昭和四十年四月建立された「上田城址の詩碑」は南村先生の揮毫になるもので三十九回卒（青々々）の協力を俟つところが多い。先生の書は蘇東波である。同年上田に

漢詩同人曲水詩社を創設、先生のご指導の下、毎月一回詩稿を発刊、先生ご逝去後も発刊を続け、今年三月現在二百二回に及んでいる。すべて先生の遺訓である。

先生は四十九年四月脳梗塞で左半身が不随となられ、五十七年五月黄泉の客となられるまで八年有余、頭脳は最後まで明晰で作詩は勿論、茶掛や扇など小さいものも揮毫などなされ、詩の添作を続けられた。上田高校創立八十周年記念式典に寄せられた七言絶句一首は記憶に新しい。

晩年は会う人ごとに「俺は晩晴だ。果報者だ」と意中を述べられ、天寿を全うせられたのである。享年七十一歳

法名は「法界院南村亮輝居士」と申し上げる著書に「漢詩の味」「抱樸集」「渭樹江雲」がある。



寿製薬株式会社



専務取締役 富山 格 (62期) 取締役社長 富山 剛 (54期)

本社 〒389-06 長野県坂城町6351 電話 02688-2-2211 (代)
東京事務所 〒101 東京都千代田区岩本町1-2-14 電話 03-862-2861 (代)

環境庁指定国民保養温泉地

鹿教湯温泉

中村旅館

社長 中村 千城 (51期)

長野県小県郡丸子町鹿教湯温泉
TEL 02684-4-2201

※専用体育館（合宿歓迎）あります。

信州の地酒

清酒 初音

醸造元 関口酒造合資会社

TEL 0268-22-0232

関口 信雄 (67回) 今井 邦夫 (45回)

上田高校同窓会・各支部報告

関東支部の現況報告

(その10)

その序に

本部発行によるこの同窓会報が年次続行されてこれ、今号でその第十七号を迎えられました。

この間、御苦心なされたこともあり、また大へん御努力もあられたことと謹察申し上げ深謝申し上げている次第でもあります。

依頼を受けて、こちら関東支部の現況報告を送り続けて、丁度今年で十年目になります。顧みて一入と感慨の深いものがあります。次にこちらの報告に移らせていただきます。

◎その一、「会報・うえだ」の発行について

関東支部についての会報の発行も、昭和四十四年の五月発行の創刊号から、春秋の年二回発行を継続し、本年五月第二十九号の発行をもって、九十五年目を迎えることになりました。一回の休刊もななく、むしろ昭和四十六年の六月には、第六号の会報と共に「ノスタルジア信州への旅」の会報大の号外も発行し、上田市の観光課と相組んで、盛会を旅をした想い出も一昔前になりました。

原稿や広告の募集にと、編集委員一同、及び各期代表幹事諸氏の心からなる支援協力を得て、今日まで発行してこられたことは、他校同窓会にはあまりみられぬ我が同窓会ならではの感を深くしてい

ます。

◎その二、関東支部会員数の現況について

過去二十余年に涉り種々手をつくして会員の把握に幹事一同でつとめて参りまして、昨年昭和五十七年二月までは、その会員数も三千名前後の数でありましたが、本部において母校創立八十周年の記念事業の一環として発行して下さった全同窓生の名簿により、新たに関東地区在住の同窓生、約五百余名の会員を知ることが出来ました。昨年五月新旧合せて総計五千五百余名の同窓生に会報第二十七号「昭和五十七年六月十日発行」を送り、併せて第二十一回の関東支部大会開催の案内号ともしましたが、二八九名の住所不明戻りがあり、更に昨年十二月会報第二十八号の発送によって、再び百余名の戻りがあり、本年昭和五十八年二月末日現在では、約五千五百名の会員数となっています。

◎その三、各期代表幹事及びその年開催される「幹事会」について

各期を代表し、現在第十三期生の大会から昨春卒業の第八十期生まで、各期を代表し昭和五十八年二月現在で一九九名の代表幹事が尽力されていくれています。期によって二、三名から五、六名の代表幹事が各期から出されています。幹事会には年に四回は原則的であり、三月、五月、九月、十一月に開催され、必要に応じて緊急的にこの外にも開催され約四十名から五十名前後の出席があり、諸案も話し、その都度自己紹介も兼ねて意見も拝聞し、楽しい会合たらしむべくと、心掛けています。次第です。

◎その四、関東支部大会の開催について

昭和五十三年六月の第十七回大会から、その年の新卒業生を無料招待することが決議され、この年第七十六期生を始め招待、わづか十余名の出席でしたが、女子後輩諸君の方が多く、若やいだ楽しい大会ともなつたことが、記憶に強く、既にこの期の諸君も昨年五十七年春には各大学を卒業され、社会人として活躍されている姿が頼母しく嬉しく思っています。以来毎年の大会にはこの計画を続行、最近では五十名以上の新卒の諸君が明るく笑顔で出席してくれて、益々大会を盛り立ててくれていることを御報告しておきたいと存じます。総員三百余名の大盛会が近年の大会風景であります。

◎その五、各同期会やその他の諸集會について

各期毎の同期会とは夫々に盛会であり、在郷同期生との合同会も期によって盛んであることは、御

承知のことですが、第七十期以降の若い期の同窓生については、一寸分りかねています。同期会の外に、各運動部毎のOB会、同職業にある同窓生の集いまた同じ会社に勤めている同窓生の会合や、故郷の同地区出身者による親睦会等、各種の諸会合同期生の会合とはまた別に活発な活動を展開していることを附言致しておきます。

結びに

以上、今回の報告記としては、関東支部における主な各分類点から記述させていただきます。列的の五十七年度の行事報告は割愛させていただきます。申添えて、関東支部の活動現状報告にかえさせていただきます。(支部長・矢島五郎記)

北海道支部と北大

戦後全国に数多くの国立大学が新設されたが全国各地から入学生願者が殺到し、入学生の五〇％は本州・四国・九州からはるばる遊ぶ学する地方大学は北大のみである。それは詩の都に憧れてか、「ポイズ ビー アンビシヤス」の名言や「都ぞ弥生の」の有名な歌に誘引されてか、偉人新戸辺福造先輩を偲んでかその要因はさだかでない。

昭和四十八年十四名という沢山の合格者を得たので在道同窓生は大変喜んで、都市での学生生活を励ますため盛大な歓迎会を開催し前途を祝福したのが昨日のようだ。その年が合格者のピークでその

追信・昭和五十八年度の、第二十二回関東支部大会は六月二十四日(金)午後六時より、昨年と同じ上野池の端文化センターで開催予定と、三月の幹事会で一応決定しました。詳細は五月下旬発行の会報第二十九号で報告します。以上

春の幹事会開催

昭和五十八年三月十七日(木)

午後六時より上野池の端文化センターで、新春の顔合せ会として関東支部幹事会が開催された。会費は第七十五期まで四万円、第七十六期以下二万円で行われた。次回の幹事会を五月二十五日、関東支部大会六月二十八日開催と決定した。なお五月下旬会報発行予定。

長野支部の現況報告

長野支部は昭和五十一年七月七日に発足、今年で八年目を迎えました。当支部の会員は、支部規約により「上田高校及びその前身校の出身者で主として長野市内に居住する者」で組織することになって居りまして、会員は現在約二百七十余名であります。

昨年の第七回の総会は申し合せにより七月七日午後六時から長野市内の山王共済会館大ホールで四十七名の会員が出席し、来賓には本会から柳沢文秋会長外数名の理事をお迎えして盛大に開催することができました。議事は極めてスムーズに原案通り認められ、そのあと役員の内任期

満了に伴う役員改選が行われ、後記のとおりそれぞれ選任されました。また柳沢会長から祝辞に併せて本会の活動状況や母校の現況などを詳細にご報告いただき、会員は懐かしい母校の昔をしのびつつ拝聴いたしました。

そのあと懇親会にうつり同窓生だけの水入らずの宴を心行くまで楽しみ来年の七夕に再会することを約して閉会しました。

- 長野支部の役員
- 支部長 小林巳根夫(23回)
- 副支部長 倉島宗二(28回)
- 同 志摩 熊雄(34回)
- 同 市村 喜之(41回)
- 幹事長 伊藤 義久(44回)

代とったキネズカの大谷君の力強い音頭で校歌、寮歌などを大合唱して心残りある宴を終了した。散会してからは三五五夜の街ススキノへ繰り出したことはいまでもない。

最後に北大卒業生尾崎喜光君は大学院マスターコースに進学、若下真二君は東京所在のゼーゼル機器株式会社に入社、めでたい報告をもって筆をおく。

本部幹事会盛會

昭和五十八年五月六日午後六時上田市大門町さきやに於いて幹事会が開催され、六月五日(日曜)午後一時より開催される総会に就いて協議を行った。上田市議員選挙終了後、連休明けで盛會だ

た。